

看護学科 教育課程 (3・4学年)

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年		2学年		3学年		4学年		担当者	単位認定者			
		必修	選択			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
教養科目群	発達・行動・心理	心理学	2	15	選択4単位+ 必修16単位+ 選択9単位+ 必修5単位	15												
		生命倫理	2	15		15												
		教育学		2		15	15											
		医療民俗学		2		15	15											
		健康スポーツ理論		2		15	15											
		健康スポーツ実技		1		15	15											
	言語と文化	英語Ⅰ	1	15		15												
		英語Ⅱ	1	15		15												
		英語表現		1		15	15											
		ステップアップ英語		1		15	15											
		中国語		1		15	15											
	人と社会・生活	韓国語		1		15	15											
		家族学	1	15		15												
		環境学	2	15		15												
		情報処理	1	15		15												
		法学	1	7.5		7.5												
		ジェンダー論		2		15	15											
		地域社会学		2		15	15											
		ボランティア活動論		1		15	15											
	基礎教育	経済学		2		15	15											
大学の学び入門		1	15	15														
看護学のための生物学		1	15	15														
看護学のための数学		1	7.5	7.5														
看護学のための化学		1	7.5	7.5														
	看護学のための基礎英語	1	7.5	7.5														
計(卒業要件)					25													
専門基礎科目群	臨床科目群	解剖学Ⅰ	2	30	必修17単位+ 選択5単位以上	15	15											
		解剖学Ⅱ		1		15	15											
		生理学	2	30		15	15											
		生化学		1		15	15											
		発達心理学	1	15			15											
		疾病の成り立ち	1	15			15											
		免疫・感染症学	1	15			15											
		薬理学	1	15			15											
		臨床検査学	1	15			15			15								
	1 緩和医療学		1	7.5						7.5					斎藤(龍)・小林(剛)・大井	斎藤 龍生		
	病態栄養学		1	15					15									
	臨床心理学		1	15					15									
	地域科目群	公衆衛生学	1	7.5				7.5										
		疫学	1	15				15										
		保健統計	1	15				15										
		社会福祉・社会保障制度論	1	15				15										
		2 地域保健行政	2	15						15					矢島 正栄・一場美根子	矢島 正栄		
栄養学(含食品学)		1	15			15												
歯科保健		1	15			15												
リハビリテーション概論			1	7.5			7.5											
3 救急法		1	15					15					北林 司	北林 司				
健康管理論		1	15				15											
カウンセリング		1	7.5					7.5										
社会福祉・地域サービス論		1	15					15										
計(卒業要件)					22													

区分	授業科目	単位数		年間コマ数	履修方法及び卒業要件	1学年	2学年	3学年	4学年	担当者	単位認定者	
		必修	選択			前期:後期	前期:後期	前期:後期	前期:後期			
専門科目群	基礎看護学			看護学入門	1		7.5					
				看護学概論	1		7.5					
				看護援助学Ⅰ	1		15					
				看護援助学Ⅱ	1		15					
				看護援助学演習Ⅰ	2		30					
				看護援助学演習Ⅱ	2		30					
				看護過程論	2		15	15				
		4			基礎看護学特論		1	7.5		7.5	真砂 涼子	真砂 涼子
	成人看護学				成人看護学総論	1		7.5				
					成人看護学Ⅰ	1		15				
					成人看護学Ⅱ	1		15				
					成人看護学Ⅲ	1		15				
		5			成人看護学Ⅳ	1		15		15	牛込・鈴木・萩原	鈴木 珠水
		6			成人看護学Ⅴ	1		15		15	酒井・萩原・小池	酒井美絵子
		7			成人看護学演習	1		15		15	酒井・鈴木・萩原・小池	鈴木 珠水
		8			成人看護学特論		1	7.5		7.5	牛込三和子他	牛込三和子
	老年看護学				老年看護学総論	1		7.5				
					老年看護学Ⅰ	1		15				
					老年看護学Ⅱ	1		15				
		9			老年看護学演習	1		15		15	伊藤まゆみ・川久保悦子	伊藤まゆみ
					10					7.5	伊藤まゆみ	伊藤まゆみ
	小児看護学				小児看護学総論	1		7.5				
					小児看護学Ⅰ	1		15				
					小児看護学Ⅱ	1		15				
		11			小児看護学Ⅲ	1		15		15	野田 智子・柴崎 由佳	野田 智子
					小児看護学特論		1	7.5		7.5	野田 智子	野田 智子
	母性看護学				母性看護学総論	1		7.5				
					母性看護学Ⅰ	1		15				
		13			母性看護学Ⅱ	2		30		30	早川・中島・池田	中島久美子
					母性看護学特論		1	7.5		7.5	早川 有子	早川 有子
	精神看護学				精神看護学総論	1		7.5				
					精神看護学Ⅰ	2		30		30		
		15			精神看護学Ⅱ	1		7.5		7.5	小林 信・鎌田由美子	小林 信
	地域看護学				地域看護学概論	2		30		30		
					地域看護学Ⅰ	2		30		30		
16				地域看護学Ⅱ	2		30		30	小林亜由美	小林亜由美	
17				地域看護学Ⅲ	1		15		15	廣田 幸子	廣田 幸子	
18				地域看護学Ⅳ	2		30		30	小林(亜)・廣田・一場	小林亜由美	
19				地域看護学特論		1	7.5		7.5	矢島 正栄	矢島 正栄	
統合分野				在宅看護概論	1		7.5					
				在宅看護論Ⅰ	1		7.5		7.5			
	20			在宅看護論Ⅱ	2		30		30	小笠原映子・生須 典子	小笠原映子	
	21			臨床看護管理学	1		7.5		7.5	酒井美絵子	酒井美絵子	
	22			地域看護管理学	1		7.5		7.5	矢島 正栄	矢島 正栄	
	23			災害看護論	1		7.5		7.5	矢島 正栄・矢嶋 和江	矢島 正栄	
	24			国際看護論	1		7.5		7.5	辻村 弘美	辻村 弘美	
臨地実習				基礎看護学実習Ⅰ	1		1w		1w			
				基礎看護学実習Ⅱ	2		2w		2w			
	25			成人看護学実習Ⅰ	3		3w		3w	牛込・鈴木・萩原	鈴木 珠水	
	26			成人看護学実習Ⅱ	3		3w		3w	酒井・小池・藤巻	酒井美絵子	
	27			老年看護学実習	4		4w		4w	伊藤・川久保・井本	伊藤まゆみ	
	28			小児看護学実習	2		2w		2w	矢島 正栄・柴崎 由佳	矢島 正栄	
	29			母性看護学実習	2		2w		2w	早川 有子・中島久美子	中島久美子	
	30			精神看護学実習	2		2w		2w	小林 信	小林 信	
	看護地域統合分野				地域看護学実習	3		3w		3w	矢島・小林(亜)・廣田	小林亜由美
					在宅看護実習	2		2w		2w	小林(亜)・廣田・一場	小笠原映子
33				総合実習	2		2w		2w	地域を除く学科教員全員	伊藤まゆみ	
研究				看護研究概説	1		15		15	伊藤まゆみ・矢島 正栄他	伊藤まゆみ	
	35			卒業研究	4		60		30 30	学科教員全員	学科教員全員	
計(卒業要件)					82							
卒業要件(最低)単位数					129							

必修81単位+選択1単位以上

授 業 科 目 名	緩 和 医 療 学	単 位 認 定 者	斎 藤 龍 生
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	緩和医療（ケア）とは、終末期に限らず医療のさまざまな分野で必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつある。がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。		
学 習 到 達 目 標	緩和医療（ケア）の歴史と緩和医療（ケア）の基本的考えを知る。 緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。 緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。 緩和医療（ケア）が患者・家族のQOL向上に大きな役割を果たすことを理解する。 終末期における家族ケア、遺族ケアの重要性を理解する。 緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種の役割や機能について理解する。		
関 連 科 目	生命倫理・家族学・地域社会学・解剖学ⅠⅡ・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・看護学入門・臨床心理学・リハビリテーション工学基礎・栄養学・カウンセリング・社会福祉・地域サービス論・看護学概論・看護過程論・成人・老年看護学総論・在宅看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験（70%）・レポート（30%）で評価を行う		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	緩和医療学総論	緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何が出来るか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介いたします。
2	緩和医学各論	疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策
3	緩和医学各論	疼痛緩和 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考えていく
4	緩和ケアの実際 ・疼痛緩和の看護	疼痛マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく
5	緩和ケアの実際 ・他の症状緩和の看護 ・全人的苦痛の緩和	他の症状マネジメントにおける看護の役割について 効果的な症状マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく 精神的苦痛と霊的苦痛（スピリチュアルペイン）のケアについて
6	緩和ケアの実際 ・家族ケア・遺族ケア	緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について
7	緩和的リハビリテーション 緩和医療における チームアプローチ	緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーション 緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割と多職種の役割と機能
8	まとめ	

教 科 書	使用せず
参 考 書	「臨床緩和ケア」大学病院の緩和ケアを考える会（青海社） 「緩和・ターミナルケア看護論」鈴木志津枝/内布敦子（ヌヴェール） 「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年度版」（金原出版株式会社） 「がん性疼痛ケア完全ガイド」林 章敏/中村めぐみ/高橋美賀子（照林社） 「がんの症状緩和 ベストナーシング」田村恵子（学研） 「ターミナルケア 10 月増刊号わかる できる がんの症状マネジメントⅡ」ターミナルケア編集委員会（三輪書店） 「家族看護 特集 終末期患者の家族への看護」野嶋佐由美/渡邊裕子（日本看護協会） 「家族看護 特集 遺族に対するケア」野嶋佐由美/渡邊裕子（日本看護協会） 「ナースのためのアロマセラピー」日本アロマセラピー学会看護研究会（MC メディカル出版）

授 業 科 目 名	地 域 保 健 行 政	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月～金 16:30～18:00
科 目 の 目 的	地域保健活動の根拠となる法律、制度、政策についての理解を深める。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉行政の理念と仕組みを説明できる。 2. 社会情勢の変化に伴う保健医療福祉行政の考え方の変遷を説明できる。 3. 保健行政の仕組みと保健師活動の関わりを説明できる。 4. 保健医療福祉計画とは何か、保健医療福祉計画策定・遂行・評価と保健師の役割を説明できる。 		
関 連 科 目	公衆衛生学、健康管理論、社会福祉・社会保障制度論、地域看護学概論、地域看護学 I～IV		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 70%、平常点 30%		
準 備 学 習 の 内 容	テキスト、配付資料をよく読んで講義に望むこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	保健医療福祉行政の目指すもの	保健医療福祉行政の根拠、理念、保健医療福祉行政に関わる諸定義、理論
2	我が国の保健医療福祉制度の変遷 1	公衆衛生の基盤形成
3	我が国の保健医療福祉制度の変遷 2	近年の公衆衛生行政施策の展開
4	保健行政の仕組みと機能 1	保健行政の体系、地域保健活動と地方自治、地域保健に関する公的機関
5	保健行政の仕組みと機能 2	地方公共団体の行財政の仕組み
6 ～ 7	地域保健行政と保健師活動 1	保健所の役割と機能強化
8	地域保健行政と保健師活動 2	市町村保健センターの役割
9 ～ 11	保健行政に関する法律	医療法、医師法および関連職種に関する法規、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の推進に関する法律、介護保険法
12 ～ 14	保健医療福祉計画と評価	保健医療福祉計画とは、保健医療福祉計画の策定プロセス、保健医療福祉計画の推進と評価、保健医療福祉計画に関わる保健師の役割
15	まとめ	

教 科 書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」(医学書院) 2. 「国民衛生の動向 2012/2013」(厚生統計協会)
参 考 書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「医療六法」(中央法規) 2. 「福祉小六法」(中央法規)

授 業 科 目 名	救 急 法	単 位 認 定 者	北 林 司
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	集中講義期間中 9時-18時までは学内で対応 18時-21時まではE-mailで対応
科 目 の 目 的	呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、心停止・呼吸停止・異物による気道閉塞といった生命が危険にさらされた人を救命する方法を理解する。さらに意識の確認・胸骨圧迫循環維持・気道確保・人工呼吸・AEDによる除細動など、一連の医療従事者向け一次救命処置（BLSHCP）を実践できることを目的とし、在学中にアメリカ心臓協会（AHA）の医療従事者向け BLS ライセンス取得を目指す。また、高度な気道確保の技術を学び、院内およびプレホスピタルケアにおいて適切な気管内挿管の介助ができ、臨時応急の場合は自らも高度な気道確保ができる技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急激に生命が危険にさらされる呼吸器障害・心血管障害・脳血管障害が説明できる。 2. 救命の連鎖について説明できる。 3. 一次救命処置（BLS）について説明できる。 4. 気道異物（FBAO）の治療手順を説明できる。 5. AEDを含む医療従事者向け一次救命処置（BLSHCP）が実践できる。 6. 気管内挿管・ラリゲルマスク挿入の介助および自らが実施できる。 		
関 連 科 目	解剖学・生理学・疾病の成り立ち・成人看護学・災害看護		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実技試験（100%）		
準 備 学 習 の 内 容	看護系大学として、在学中に BLSHCP(Basic Life Support for Health Care Providers)ライセンス取得を促進したのは当大学が先駆けである。AHAの BLSHCP 受講は、現役の医師・看護師・救急救命士らと共に挑戦することになる。したがって、真剣に本科目に臨み、在学中にライセンスを取得してもらいたい。非常に重みのある BLSHCP ライセンスの取得は、国家試験合格のみならずその後の看護活動に際して大きな自信となるはずである。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	わが国の救命医療体制	<ol style="list-style-type: none"> ① わが国救命医療体制を理解する。 ② 救急医療従事者（EMS）について理解する。
2	一次救命処置（BLS）	<ol style="list-style-type: none"> ① 一次救命処置、二次救命処置の区分を理解する。 ② 救命の連鎖について理解する。
3	呼吸器系、心血管系、脳血管系の解剖と生理学	<ol style="list-style-type: none"> ① 呼吸器系の解剖・生理を理解する。 ② 心血管系の解剖・生理を理解する。 ③ 脳血管系の解剖・生理を理解する。
4	急性冠症候群（ACS）について	<ol style="list-style-type: none"> ① 急性冠症候群（ACS）を理解する。 ② 急性心筋梗塞（AMI）の症状を理解する。 ③ 胸部不快感を訴える人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。
5	急性脳血管障害について	<ol style="list-style-type: none"> ① 一過性脳虚血発作（TIA）について理解する。 ② 虚血性脳血管障害について理解する。 ③ 出血性脳血管障害について理解する。 ④ 急性脳血管障害の可能性のある人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。
6	成人に対する CPR 演習①	<ol style="list-style-type: none"> ① 反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解し実践できる。 ② 胸骨圧迫循環維持の方法を理解する。 ③ 呼吸の有無を確認する方法を理解する。 ④ 成人に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ⑤ 成人に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。 ⑥ 早期除細動の重要性を理解する。 ⑦ AEDの目的を理解する。 ⑧ AEDの使用方法を理解する。 ⑨ AEDから「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容
7	成人に対する CPR 演習②	① 反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解し実践できる。 ② 成人に対する胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解する。 ③ 呼吸の有無を確認する方法を理解する。 ④ 成人に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ⑤ 成人に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。 ⑥ 早期除細動の重要性を理解する。 ⑦ AED の目的を理解する。 ⑧ AED の使用方法を理解する。 ⑨ AED から「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。
8	成人に対する CPR 演習③	① 反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解し実践できる。 ② 成人に対する胸骨圧迫循環維持の方法を理解し実践できる。 ③ 成人に対する呼吸の有無を確認する方法を理解し実践できる。 ④ 成人に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ⑤ 成人に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。 ⑥ 早期除細動の重要性を理解する。 ⑦ AED の目的を理解する。 ⑧ AED の使用方法を理解する。 ⑨ AED から「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。
9	成人に対する CPR 演習④	① 反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解し実践できる。 ② 成人に対する胸骨圧迫循環維持の方法を理解し実践できる。 ③ 成人に対する呼吸の有無を確認する方法を理解し実践できる。 ④ 成人に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ⑤ 成人に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。 ⑥ 早期除細動の重要性を理解する。 ⑦ AED の目的を理解する。 ⑧ AED の使用方法を理解する。 ⑨ AED から「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。
10	成人および乳児の異物による気道閉塞 (FBAO) について	① 成人の異物による気道閉塞の原因を理解し実践できる。 ② 反応のある成人の FBAO に対する治療手順を理解し実践できる。 ③ 反応のない成人の FBAO に対する治療手順を理解し実践できる。
11	乳児に対する CPR 演習①	① 反応のない乳児に遭遇した時の適切な行動を理解し実践できる。 ② 乳児に対する胸骨圧迫循環維持の方法を理解し実践できる。 ③ 乳児に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ④ 乳児に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。
12	乳児に対する CPR 演習②	① 反応のない乳児に遭遇した時の適切な行動を理解し実践できる。 ② 乳児に対する胸骨圧迫循環維持の方法を理解し実践できる。 ③ 乳児に対する気道確保の方法を理解し実践できる。 ④ 乳児に対する人工呼吸の方法を理解し実践できる。
13	高度な気道確保演習	① 管内挿管の介助および自らが気管内挿管できる。
14	成人に対する一連の BLS 実技試験	① AHA の BLS アルゴリズムに沿って一次救命処置が実践できる。
15	成人に対する一連の BLS 実技試験およびまとめ	① AHA の BLS アルゴリズムに沿って一次救命処置が実践できる。

教 科 書	別途プリントを配布するので教科書は購入不要
参 考 書	ポケットマスク購入要 (2,000 円 : 税込) 別途お知らせします。 必携 医療従事者のための臨床用語・略語 BOOK : 北林 司 北方新社刊 (1,000 円税込)

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 特 論	単 位 認 定 者	真 砂 涼 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水 曜 : 12 : 10 ~ 12 : 50
科 目 の 目 的	基礎看護学の視点から看護学の専門性、現状、展望について、先行研究を取り上げながら考察する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に関するについて、文献等を用いて情報収集ができる。 2. 文献等で得られた情報に基づき、看護に関する課題と展望について考えることができる。 3. 看護の専門性について、演習での学びに基づいて考えることができる。 		
関 連 科 目	看護学入門、看護学概論、看護援助学Ⅰ・Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱをはじめとする看護学全般の科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	演習における発表・討議内容 (70%)、課題レポート (30%)		
準 備 学 習 の 内 容	担当となった課題に関するプレゼンテーション準備		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護の現状と課題	看護に関する現状と課題について学ぶ。
2	看護の専門性	対象を理解する方法としてのフィジカルアセスメント技術を取り上げ、医療チームにおける看護の専門性を考察する。
3	看護の課題と展望	看護に関する課題について、文献を元に考察し、発表・討議する。
4		
5		
6		
7		
8	まとめ	第1回～7回の内容についてまとめる。

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 IV	単 位 認 定 者	鈴 木 珠 水
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義前後、昼休み
科 目 の 目 的	疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	血液造血管器疾患、神経系疾患、膠原病、糖尿病、腎泌尿器疾患、運動器疾患、感覚器疾患をもつ人々の看護について基礎知識を習得し、看護方法を理解できる。		
関 連 科 目	ここまで履修したすべての専門科目。とくに、成人・老年看護学概論、成人看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 100% (各授業中の確認テストも含む)		
準 備 学 習 の 内 容	事前に指定教科書を読んでおくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(鈴木珠水) 臨床看護学総論 1 (萩原英子)	慢性疾患患者の看護
2	臨床看護学総論 2 (鈴木珠水)	がん患者の看護
3	内分泌代謝疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
4	内分泌代謝疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、糖尿病と看護 1
5	内分泌代謝疾患患者の看護 3 (及川洋)	症状・障害と看護、糖尿病と看護 2
6	感覚器疾患患者の看護 (鈴木珠水)	観察とアセスメント、検査・治療と看護 症状・障害と看護、主な疾患と看護
7	腎・泌尿器疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
8	腎・泌尿器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
9	腎・泌尿器疾患患者の看護 3 (牛込三和子)	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
10	神経系疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
11	神経系疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護 1
12	神経系疾患患者の看護 3	症状・障害と看護、主な疾患と看護 2
13	膠原病患者の看護 (萩原英子)	症状・障害と看護、主な疾患と看護 3
14	血液・造血管器疾患患者の看護 1	観察とアセスメント、検査・治療と看護
15	血液・造血管器疾患患者の看護 2	症状・障害と看護、主な疾患と看護

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学【2】 - 【15】 医学書院
参 考 書	解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 V	単 位 認 定 者	酒 井 美 絵 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み sakai@paz.ac.jp
科 目 の 目 的	クリティカル期および周手術期看護の考え方を理解するとともに、患者・家族の心理、病態と身体反応、想定される看護問題と看護活動に関する理解を深める。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカル期、周手術期看護の考え方が理解できる。 2. クリティカル期、周手術期にある患者・家族の心理的特徴と看護援助が理解できる。 3. クリティカル期、周手術期看護における病態と身体反応が理解できる。 4. クリティカル期、周手術期看護における看護問題が理解できる。 5. 術後合併症の理解とその予防のための看護援助が理解できる。 6. 術式による特徴的な看護が理解できる。 7. 術中・術後の身体反応と回復過程が理解できる。 		
関 連 科 目	解剖学、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人および老年看護学総論、成人看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 100%		
準 備 学 習 の 内 容	指定教科書を読んでおくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	クリティカルケア看護総論 1	(酒井, 萩原, 小池, 及川で担当) クリティカル期の概要と病態の理解 (酒井)
2	クリティカルケア看護総論 2	クリティカル期にある人の病態と看護 (酒井)
3	周手術期看護総論	周手術期看護の考え方と理解 (酒井)
4	術前・術中看護	手術に向けた準備と術中の看護 (小池)
5	術後看護 1	術後合併症と予防のための看護技術 (小池)
6	術後看護 2	術後合併症の予防と看護の実際(ICUにおける看護) (及川)
7	周手術期看護各論 1	開腹術(消化器:食道・胃)を受ける人の看護 (酒井)
8	周手術期看護各論 2	開腹術(消化器:腸)を受ける人の看護 (酒井)
9	周手術期看護各論 3	開腹術(消化器:肝・膵)を受ける人の看護 (酒井)
10	周手術期看護各論 4	開頭術(脳)を受ける人の看護 (小池)
11	周手術期看護各論 5	開胸術(心疾患)を受ける人の看護 (小池)
12	周手術期看護各論 6	運動器の手術を受ける人の看護 (萩原)
13	周手術期看護各論 7	運動器の手術を受ける人の看護 (萩原)
14	周手術期看護各論 8	女性生殖器の手術を受ける人の看護 (萩原)
15	周手術期看護各論 9	女性生殖器の手術を受ける人の看護 (萩原)

教 科 書	「周手術期看護論」雄西智恵美, 秋元典子編集 ノーヴェルヒロカワ
参 考 書	系統看護学講座 成人看護学【2】～【10】医学書院

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 演 習	単 位 認 定 者	鈴 木 珠 水
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、グループワーク、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義前後、昼休み
科 目 の 目 的	1. 2 年次に学習した看護過程の知識に基づき、健康問題を有する成人の事例を用いて、自身の看護過程展開能力を強化する。 2. 実習に必要な基礎的な看護技術を強化する。		
学 習 到 達 目 標	1. 与えられた情報についてアセスメントできる。 2. 介入計画を具体的に提案することができる。 3. 創部処置、ストーマケアの方法を理解し実践できる。 4. 呼吸管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 5. 循環管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 6. 栄養管理の方法が理解できる。		
関 連 科 目	基礎看護学・解剖学・生理学・疾病の成り立ち、成人看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 70%, 提出物 30%		
準 備 学 習 の 内 容	看護過程演習では事前に配布された事例を読み、課題を行うこと。 技術演習では、その日行う技術に関する配布資料を事前学習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護過程演習 1	(牛込、酒井、鈴木、萩原、小池、藤巻で担当) 看護過程の展開について—看護問題・看護目標の抽出 看護記録の書き方—慢性期の事例を使つての看護展開
2	看護過程演習 2	
3	看護過程演習 3	
4	看護過程演習 4	
5	看護過程演習 5	疾患を持つ成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する グループ発表と討論
6	看護過程演習 6	
7	看護技術演習 1	循環管理：12 誘導心電図、患者監視装置、輸液ポンプ・シリンジポンプ
8	看護技術演習 2	
9	看護技術演習 3	呼吸管理：気管内吸引、低圧持続吸引、NIPPV、HOT、ネプライザー
10	看護技術演習 4	
11	看護技術演習 5	栄養管理：ストーマケア、血糖測定、経管栄養
12	看護技術演習 6	
13	看護技術演習 7	創傷ドレーン管理、各看護技術の演習、確認
14	看護技術演習 8	
15	看護技術演習 9	

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学【2】－【15】 医学書院 ビジュアル 臨床看護技術ガイド 照林社、写真でわかる臨床看護技術 インターメディカ 写真でわかる基礎看護技術 1, 2 インターメディカ
参 考 書	看護診断ハンドブック 第9版 医学書院, カルペニート 看護過程・看護診断入門—概念マップと看護計画の作成 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ニューヴェルヒロカワ パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護実習ガイド I・II 照林社

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 特 論	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後、昼休み
科 目 の 目 的	疾患をもつ成人期にある人々の看護課題について理解を深め、また、現場の実践活動から看護支援方法を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. 患者の QOL の視点から看護の課題を理解する。 2. 専門性を持って働く看護師の活動を理解する。		
関 連 科 目	成人看護学総論、成人看護学 I、II、III、IV、V、成人看護学実習、看護管理学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	提出物 100%		
準 備 学 習 の 内 容	特になし		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	(牛込三和子) 神経難病療養者の QOL と看護	神経難病療養者の療養問題、病気の進行と療養者の QOL、意思決定支援と看護の課題を理解する。
2	(酒井美絵子) 食事摂取に関する QOL と看護	食事摂取が困難になることの意味を考え、看護の課題を理解する。
3	(鈴木珠水) 環境保健・環境と看護	環境が人間にもたらす影響と、その環境に対して不耐状態の患者が増加している意味を考え、看護の課題を理解する。
4	(未定) 専門看護の実践 1	特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。(がん看護関連の認定看護師、専門看護師)
5	専門看護の実践 2	特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。(集中ケアの認定看護師)
6	専門看護の実践 3	特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。(エイズ治療・研究開発センター 看護支援調整官)
7	専門看護の実践 4	特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。(難病相談支援センター相談支援員の保健師)
8	専門看護の実践 5	特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。(未定)

教 科 書	指定せず (必要に応じて資料を配布する)
参 考 書	適宜紹介する。

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 演 習	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演習、講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月・火・金曜日の昼休み
科 目 の 目 的	健康な高齢者を対象としたアセスメントの経験をもとに、老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の看護過程の展開方法を学習する。また、演習を通して高齢者への援助技術を学習する。		
学 習 到 達 目 標	1. 老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、計画立案ができる。 2. 事例で設定された個別性、条件をふまえ、援助計画に基づいた看護技術を実施できる。		
関 連 科 目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、基礎看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	ミニレポート・平常点 (35%)、グループワーク成果 (15%) レポート、技術・知識テスト (50%)		
準 備 学 習 の 内 容	老年看護学Ⅰ・Ⅱの既習内容を復習して授業に臨むこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	老年期に特徴的な疾患と看護	認知症・脳梗塞・大腿骨頸部骨折の基本的知識と看護の確認
2	看護過程の展開①	事例の概要、グループワーク① (事例内容の確認)
3	看護過程の展開②	グループワーク② (情報整理)
4	看護過程の展開③	グループワーク③ (アセスメント、関連図作成)
5	看護過程の展開④	グループワーク④ (計画立案、まとめ)
6	看護過程の展開⑤	グループワークの成果発表、討議
7	高齢者への援助技術①	食事
8	高齢者への援助技術②	経管栄養
9	高齢者への援助技術③	口腔ケア
10	高齢者への援助技術④	移乗、活動
11	高齢者への援助技術⑤	体位、褥瘡予防
12	高齢者への援助技術⑥	排泄ケア
13	高齢者への援助技術⑦	技術の復習
14	高齢者への援助技術⑧	技術テスト
15	高齢者への援助技術⑨	看護計画・援助技術・評価

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子 (医学書院)
参 考 書	「生活機能からみた老年看護過程」山田律子 (医学書院) 「写真でわかる基礎看護技術 1, 2」村上美好 (インターメディカ)

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 特 論	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ウ ー	月・火・金曜日の昼休み
科 目 の 目 的	さまざまな健康段階にある高齢者に応じた看護学的課題の現状と問題解決のための方向性を幅広い視点から学習する。また課題についての文献学習・事例検討・討議をとおして、看護職が果たす役割と今後の課題を考察する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康寿命の概念と高齢者におけるヘルスプロモーションのあり方について理解する。 2. 治療を受ける高齢者の早期回復のための支援のあり方について学習する。 3. 認知症高齢者と家族の支援のあり方について学習する。 4. 高齢者ケアにおける倫理的課題について考えることができる。 		
関 連 科 目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、老年看護学実習		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	演習における発表・討議内容(70%)、レポート(30%)		
準 備 学 習 の 内 容	担当部分のプレゼンテーション準備		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	コースガイダンス	高齢者と健康、老年看護学に求められる今日的課題
2	高齢者の健康段階と看護のかかわり	高齢者の健康段階と看護学的課題の提示
3	課題の提示と討議①	健康寿命とヘルスプロモーション
4	課題の提示と討議②	入院・手術を受ける高齢者とせん妄の問題
5	課題の提示と討議③	高齢者の医療・ケアにおける身体拘束の問題
6	課題の提示と討議④	高齢者虐待の問題
7	課題の提示と討議⑤	高齢者の摂食障害と胃瘻の問題
8	まとめ	高齢者ケアにおける看護職の役割と責務

教 科 書	使用しない。
参 考 書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 III	単 位 認 定 者	野 田 智 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	さまざまな病気や障害など、何らかの健康問題を抱えた子どもの看護過程の展開方法と、看護援助技術について学ぶことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 小児期に特徴的な健康障害を持つ子どもと家族の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、ケアプランの作成ができる。 2. 成長発達過程にある子どもと家族に応じた看護技術が実施できる。		
関 連 科 目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 60%、課題提出 20%、講義・演習への参加度 20%		
準 備 学 習 の 内 容	教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、および専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱを復習しておくこと また、講義と並行してバーチャル子育てを行うので毎回準備しておくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	小児の看護技術①	子どもと援助関係を形成する技術、遊びの援助
2	小児の看護技術②	抱っこ、授乳、乳幼児の食事の援助、口腔ケア
3	小児の看護技術③	おむつ交換、排泄自立への援助、着脱、着脱自立への援助
4	小児の看護技術④	事故と感染を防止する環境作り
5	小児の看護技術⑤	バイタルサインの測定と評価、身体計測と評価
6	小児の看護技術⑥	精神発達の評価
7	小児の看護技術⑦	吸入、経口与薬、輸液管理
8	小児の看護技術⑧	採血、採尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺
9	小児の看護技術⑨	清潔の援助（清拭、臀部浴）
10	小児の看護過程の展開	「急性疾患」「慢性疾患」「先天性の疾患」「悪性の疾患」「重症心身障害」などの Paper Patient を用いて看護過程を展開する
11		
12	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて「ベッド柵の取り扱い」「抱っこ」「バイタルサインの測定」「身体計測」「授乳」「おむつ交換」「着脱」「清拭」の技術演習を行う ・グループに分かれて Paper Patient を用いて看護過程の展開をまとめ、発表する
13	「技術演習」	
14	「看護過程展開の演習」	
15	まとめ	1～14 回までの講義と演習内容のまとめ

教 科 書	1. 「ナーシング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編（メディカ出版）2012。 2. 「ナーシング・グラフィカ(29)小児看護学；小児看護技術」中野綾美編（メディカ出版）2012。 3. 「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第 12 版」奈良間美保他著（医学書院）2011
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 特 論	単 位 認 定 者	野 田 智 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	近年の小児保健や小児看護に関連するトピックスを取り上げ、その背景にある社会情勢や医療・保健・福祉の動向を理解し、今後の小児看護について展望することを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	1. 近年の子どもの健康問題について子どもの権利擁護といった観点で考察することができる。 2. 子どもの未来のために看護師として果たしうる可能性について考察することができる。		
関 連 科 目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 40%、講義への出席と参加度 60%		
準 備 学 習 の 内 容	配布した資料を読んでおくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	ガイダンス	主に小児のメンタルヘルスと関連した健康問題を取り上げて講義する予定である。（以下の内容を予定している） なお、小児看護学の復習として毎回講義の前に国家試験の問題を解き、解説する。 延命治療を考える 日本の小児救急医療体制について考える 日本のワクチン事情について考える 10歳の壁とギャング集団について考える 友達との距離を上手くとれず悩む子どもたちについて考える 発達障害は本当に増えているのか？広汎性発達障害について知る 広汎性発達障害に対する対応の基本を知る
2	周産期の問題	
3	乳幼児期の問題①	
4	乳幼児期の問題②	
5	児童期の問題	
6	思春期の問題	
7	障害児の問題①	
8	障害児の問題①	

教 科 書	特に指定しない。毎回資料を配布する
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 II	単 位 認 定 者	中 島 久 美 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義 演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授業開講日の 12時～13時(中島研究室)
科 目 の 目 的	妊娠・分娩・産褥期、及び新生児に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、母性看護の特徴と看護の役割について考える。母性看護の対象への看護を展開するための基礎的知識・技術を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦、及び新生児の経過とその看護について理解できる。 2. ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過とその看護が理解できる。 3. 人間の性と生殖、およびその看護について理解できる。 4. 母子とその家族への支援について理解できる。 5. 母性看護に必要な基礎的技術を習得する。 		
関 連 科 目	教養科目群：生命科学 生命倫理 家族学 性の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群：生理学 生化学 発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・地域看護学等）		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況（講義に2/3以上の出席で試験可）、小テスト（30%）、定期試験（70%）にて評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	母性看護学総論、母性看護学Ⅰの講義内容の復習が重要。特に周産期医療とその看護について、課題をもって講義に臨んでほしい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1-2	妊娠の始まりと胎児の成長、妊娠経過	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の成立、胎児の発育と発達について ・妊娠の経過（からだと心の変化：妊婦・胎児）
3-4	妊婦の心理社会的側面と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の心理社会的側面のアセスメント ・妊婦の看護（健康管理・保健指導）、パースプラン
5-6	妊娠期の健康問題とその看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク妊娠とその看護 <ul style="list-style-type: none"> ・流産・早産 ・妊娠高血圧症候群 ・前置胎盤・常位胎盤早期剥離 ・多胎妊娠
7-8	分娩の生理と経過、産婦の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・正常分娩の生理と経過 ・産婦の看護（分娩経過に伴う看護、産婦とその家族）
9-10	異常分娩、産婦の心理社会的側面と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・帝王切開 ・吸引・鉗子分娩 ・無痛分娩 ・分娩監視装置（装着と判定） ・産婦の心理社会的側面のアセスメント
11-12	妊婦・産婦の技術（実技演習①）	<ol style="list-style-type: none"> (1) レオポルド触診・腹囲・子宮底測定 (2) 分娩監視装置（NST）の取り扱いと判定 (3) 産婦の看護：産痛緩和法、補助動作など
13-14	産褥経過、褥婦の心理社会的側面と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・産褥の経過（からだと心の変化） ・褥婦の心理社会的側面のアセスメント、出産体験の振り返り ・産褥期にある女性とその家族への日常生活の支援
15-16	新生児経過と新生児の看護	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児の経過と特徴、看護
17	新生児のフィジカルアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児のフィジカルアセスメント
18	新生児期の健康問題	<ul style="list-style-type: none"> ・健康障害のある新生児の看護について ・胎児仮死、低出生体重児、呼吸障害、低血糖、黄疸、先天異常等
19-20	母乳育児支援	<ul style="list-style-type: none"> ・乳汁分泌のメカニズム、母乳育児支援 ・親子の絆とアタッチメント

回	講義題目	講義内容
21-22	褥婦・新生児の技術（実技演習②）	(1)新生児のフィジカルアセスメント (2)沐浴 (3)子宮復古状態（子宮収縮、外陰部観察）・乳房の触診、授乳介助
23-24	人間の性と生殖	・不妊治療 ・不妊治療と看護（生殖をめぐる倫理含む） ・家族計画・人工妊娠中絶と看護
25-26	ウェルネス看護診断による看護過程の展開（演習①）	・母性看護におけるウェルネス看護診断の考え方 ・事例による看護過程の展開（1）（情報収集・根拠・アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案、具体策、評価・考察）
27-28	ウェルネス看護診断による看護過程の展開（演習②）	・事例による看護過程の展開（2）（情報収集・根拠・アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案、具体策、評価・考察）
29-30	ウェルネス看護診断による看護過程の展開（演習③）	・事例による看護過程の展開（3）（情報収集・根拠・アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案、具体策、評価・考察）

教科書	母性看護学各論 母性看護学Ⅱ（医学書院）
参考書	母性の心理社会的側面と看護ケア（医学書院） 病気が見える【産科】（medicmedia）

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 特 論	単 位 認 定 者	早 川 有 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火曜日 14 時—15 時 (早川研究室)
科 目 の 目 的	最近の母性看護の動向を学ぶことを通して、発展的視野で母性看護の役割と今後の課題を考える。		
学 習 到 達 目 標	1. 母性看護の役割と意義を考えることができる。 2. 母性看護を支援する社会システム・保健医療システムを理解する。 3. 母性看護の現状から今後の課題が考えられる。		
関 連 科 目	母性・小児看護学、心理学、教育学、生命倫理、家族学、地域社会学、環境学、健康管理論ほか		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	演習における発表・討議 (80%) レポート (20%)		
準 備 学 習 の 内 容	母子に関連ある雑誌・新聞記事等を事前に調べ、課題に関する準備をして参加すること		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	母性看護の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・母性看護学特論の講義概要 ・母子に関する現状と課題を最近のトピックス (雑誌・新聞など) から考える。
2 - 7	課題に関する発表と討議	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳育児支援について ・母子感染症について ・妊娠・分娩・産褥について ・不妊症について ・虐待について ・環境と母子の健康問題について
8	まとめ	第1回～7回の内容についてのまとめ

教 科 書	なし
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	精 神 看 護 学 II	単 位 認 定 者	小 林 信
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	火 曜 日 16 : 30 ~ 17 : 30
科 目 の 目 的	精神障害に関する社会制度と関連法規を学び、地域生活者としての精神障害者を支える看護師の機能と役割を習得する。		
学 習 到 達 目 標	1. 精神科リハビリテーションの概念が理解できる。 2. 精神障害に関する社会資源とそのシステムが理解できる。 3. 地域で生活する精神障害者とその家族の抱える問題とそのサポートの在り方が理解できる。		
関 連 科 目	「精神看護学総論」、「精神看護学Ⅰ」、「社会福祉・社会保障制度論」、「地域保健行政」、「社会福祉・地域サービス論」		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (80%)、授業の中で指示した提出課題 (20%) よって評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	各回授業範囲の専門用語の意味を事前に調べて理解しておくことが望ましい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	精神科リハビリテーションとは	精神科におけるリハビリテーションの概念と症状コントロール
2	社会制度と社会資源	精神障害者が利用できる社会制度と社会資源について
3	地域精神看護の実際	保健師、精神訪問看護、精神保健福祉相談員の活動
4	薬物療法と看護①	中枢神経系における情報伝達の仕組みと向精神薬の作用機序、抗精神病薬、抗うつ薬の作用と副作用
5	薬物療法と看護②	抗不安薬、その他の精神科薬の作用と副作用 精神科薬物療法における看護師の役割
6	当事者と語る	当事者 (患者本人もしくは家族) と語る
7	家族支援・家族看護	精神障害者の家族支援と看護師の役割 高感情表出と心理教育を中心に
8	まとめ	

教 科 書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]」 武井麻子 (医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学[2]」 武井麻子 (医学書院)
参 考 書	「分裂病の少女の手記 改訂版」セシュエー (みすず書房) 「こころの病と生きる」若林菊男編 (萌文社) 「精神保健福祉白書 (2011年版)」精神保健福祉白書編集委員会 (中央法規)

授 業 科 目 名	地 域 看 護 学 II	単 位 認 定 者	小 林 亜 由 美
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授業前後、昼休み
科 目 の 目 的	地域で生活する人々を捉える視点を学び、人々の主体性を尊重した援助の基本姿勢を身につける。また、地域及び集団を単位とした健康問題の探求と、問題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を学ぶ。さらに、保健計画の策定・遂行・評価、及び施策化に関わる看護専門職の役割について理解を深める。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の特性と、そこで生活する人々の様子や健康・生活上のニーズを捉えて記述できる。 2. 地域で生活する人々の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援する方法を考案できる。 3. 地域及び集団の健康管理のための計画を立案できる。 4. 地域の健康管理における関係機関、関係職種との連携の必要性と方法を説明できる。 5. 保健計画の意義、策定・遂行・評価のプロセスと看護専門職の役割を説明できる。 		
関 連 科 目	地域看護学概論、地域看護学Ⅰ、地域看護学Ⅲ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 (50%)、演習内容 (50%)		
準 備 学 習 の 内 容	テキストの各回講義内容に該当するところを読んでから授業に臨んでください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	地域保健活動の対象のとらえ方	地域保健活動の対象、地域の健康問題の捉え方、健康問題の構造
2	地域保健活動の展開 1 地区把握	地区把握・問題発見の考え方と方法
3	地域保健活動の展開 1 地区把握	〃
4	地域保健活動の展開 2 地区診断	地区診断の目的と方法
5	地域保健活動の展開 3 活動方針・活動目標の設定	活動方針・活動目標の考え方と盛り込むべき内容優先順位の考え方
6	地域保健活動の展開 3 活動方針・活動目標の設定	〃
7	地域保健活動の展開 4 地域保健活動計画の立案	地域保健活動計画立案のプロセス
8	地域保健活動の展開 4 地域保健活動計画の立案	必要量-稼働量の算定、予算化、地域保健活動計画と住民参加
9	地域保健活動の展開 4 地域保健活動計画の立案	〃
10	地域保健活動の展開 5 活動計画の実践と評価	地域保健活動のモニタリングと計画の修正、地域保健活動の評価の目的と考え方
11	地域保健活動の展開 5 活動計画の実践と評価	地域保健活動の評価に用いる指標と評価方法
12	〈演習〉 地区診断と地域保健活動計画作成演習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 地域住民のヘルスニーズの把握方法と、ヘルスニーズに対応させた地域保健活動の展開方法を理解する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容
13 ～ 27		2. 方法 1)対象地域:榛東村 2)内容:対象地域の地区把握・地区診断・健康問題の分析・地域保健活動計画の作成・地域保健活動評価計画の作成 3)実施方法:グループ毎に母子、成人等の1領域を担当する。
28 29	地域保健活動計画報告・検討会	各グループが作成した地区活動計画を発表し、内容について全体討議を行う。
30	まとめ	

教 科 書	「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論」平野かよ子編集（メヂカルフレンド社） 「国民衛生の動向2012/2013」（財団法人厚生統計協会）
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	地 域 看 護 学 III	単 位 認 定 者	廣 田 幸 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月 曜 : 1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0
科 目 の 目 的	母子保健活動の理念と特質を学び、実践の基礎となる知識及び技術を習得する。		
学 習 到 達 目 標	1. 母子保健活動の理念と目的がわかる。 2. 母子が抱える健康課題の支援の方法がわかる。 3. 我が国の母子保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割がわかる。		
関 連 科 目	地域看護学概論、地域看護学Ⅰ、地域看護学Ⅱ、保健指導論、公衆衛生学、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、小児看護学概論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、精神看護学総論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験(80%)・授業への参加度(20%)		
準 備 学 習 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域看護学概論、地域看護学Ⅰ、母性看護学、小児看護学で学んだ知識をしっかりと定着させて臨んでください。 ・教科書の各回講義内容に該当するところを読んでから授業に参加してください。 		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	母子保健総論	母子保健の考え方・我が国の母子保健の変遷
2	母子保健総論	我が国の母子保健の水準
3	母子保健総論	我が国の母子保健施策の概要
4	母性保健論	思春期の保健指導
5	母性保健論	若い家族の保健指導
6	母性保健論	妊娠・分娩・産褥期の保健指導 1
7	母性保健論	妊娠・分娩・産褥期の保健指導 2
8	母性保健論	子育て期の保健指導、更年期の保健指導
9	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 1
10	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 2
11	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 3
12	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 4
13	小児保健論	乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 5
14	小児保健論	障害児・小児慢性疾患児の保健指導
15	小児保健論	ハイリスク母子の保健指導

教 科 書	<ul style="list-style-type: none"> ・「最新保健学講座 3 地域看護活動論①ライフステージの特性と保健活動」金川克子編 (メヂカルフレンド社) ・国民衛生の動向 2012/2013 (財団法人厚生統計協会)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	地 域 看 護 学 IV	単 位 認 定 者	小 林 亜 由 美
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義 (オムニバス方式)	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	授業前後、昼休み
科 目 の 目 的	地域看護活動の対象となる成人保健、高齢者保健、精神保健、難病対策、感染症対策についてその理念と特質を学び、保健指導の実践の基礎となる知識を習得する。またそれぞれの領域において現代の地域社会が抱える課題について考え、地域における健康管理体制について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. 生活習慣病、高齢者、精神疾患、感染症、難病、障害者 (児) に関する保健活動の理念と目的が理解できる。 2. 対象者が抱える問題と支援の展開方法がわかる。 3. 同領域における我が国の保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割が理解できる。		
関 連 科 目	免疫・感染症学、公衆衛生学、疫学、老年看護学総論、老年看護学ⅠⅡ、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅴ、歯科保健、社会福祉・社会保障制度論、精神看護学総論、精神看護学ⅠⅡ、地域看護学概論、地域看護学Ⅰ～Ⅲ、地域保健行政、地域看護学特論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 (成人保健 30%、高齢者保健 15%、感染症保健 20%、障害者保健/難病対策 15%、精神保健 20%)		
準 備 学 習 の 内 容	各回講義内容について教科書および国民衛生の動向を事前に読んでおくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	成人高齢者施策 1	オリエンテーション、我が国の成人高齢者の健康問題と対策 健康増進対策：健康日本 21、健康増進法、新健康フロンティア戦略 特定健康診査と特定保健指導：高齢者の医療の確保に関する法律
2	成人高齢者施策 2	
3	成人高齢者施策 3	
4	成人保健活動 1	メタボリックシンドローム・生活習慣病の保健指導 栄養・食生活の保健指導 身体活動・運動の保健指導 がん対策 たばこ・アルコールの保健指導 自殺予防・こころの健康・睡眠 口腔・歯科保健指導
5	成人保健活動 2	
6	成人保健活動 3	
7	成人保健活動 4	
8	成人保健活動 5	
9	成人保健活動 6	
10	成人保健活動 7	
11	成人高齢者施策 4	要支援・要介護者対策：介護保険法 介護予防対策：介護保険法、新健康フロンティア戦略 認知症高齢者の支援、ターミナルケア 高齢者虐待
12	成人高齢者施策 5	
13	高齢者保健活動 1	
14	高齢者保健活動 2	
15	感染症対策 1	我が国の感染症対策の動向：感染症の予防及び感染症の患者に対する法律 麻疹・インフルエンザ対策と保健活動 食中毒対策と保健活動 (腸管出血性大腸炎、ノロウイルス等) H I V 感染症/エイズ/性感染症対策と保健指導 結核対策 結核の保健活動
16	感染症対策 2	
17	感染症対策 3	
18	感染症対策 4	
19	感染症対策 5	
20	感染症対策 6	
21	障害児 (者) 保健 1	障害児 (者) 対策：障害者自立支援法 障害児 (者) 対策と保健活動
22	障害児 (者) 保健 2	
23	難病対策 1	我が国の難病対策と保健活動

回	講義題目	講義内容
24	精神保健 1	地域精神保健福祉活動 ・精神保健福祉法と関係する行政の役割 ・地域精神保健福祉活動と保健師の役割
25	精神保健 2	地域精神保健福祉活動に向けての基礎知識 ・歴史の変遷（医療・福祉対策を含めて）
26	精神保健 3	・ライフサイクルからみた精神保健 ・社会病理を背景とする精神保健の理解
27	精神保健 4	地域精神保健福祉活動の実際(1)～個別支援を中心に～
28	精神保健 5	・精神保健福祉相談と家庭訪問指導 ・個別事例から支援について理解する（グループワークを通して）
29	精神保健 6	地域精神保健福祉活動の実際(2)～地域での支援を中心に～
30	精神保健 7	・精神障害者の実態や医療費分析等から施策化に至る活動の実際 ・地域情報から地域での保健師活動について理解する （グループワークを通して）

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「最新保健学講座 3 公衆衛生看護活動論①ライフステージの特性と保健活動」金川克子編（メヂカルフレンド社） ・「最新保健学講座 4 公衆衛生看護活動論②心身の健康問題と保健活動」金川克子編（メヂカルフレンド社） ・「国民衛生の動向 2012/2013」（厚生統計協会）
参考書	特になし

授 業 科 目 名	地 域 看 護 学 特 論	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月～金 16:30～18:00
科 目 の 目 的	学生が自ら健康教育を企画・運営・評価することをとおして、地域の人々を対象とする集団教育の展開方法と、教育的働きかけの方法を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. 集団教育の計画・実施・評価の一連の過程を実施できる。 2. 対象が健康を保持増進させる行動をとれるよう援助する方法を考案できる。		
関 連 科 目	地域看護学概論、地域看護学Ⅰ、地域看護学Ⅱ、地域看護学Ⅲ、地域看護学Ⅳ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	演習内容 (60%)、レポート (40%)		
準 備 学 習 の 内 容	地域看護学Ⅰ で学んだ健康教育の単元を十分復習してから臨んでください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2 ～ 6 7 ・ 8	オリエンテーション 演習 健康教育実施・評価	<p>1. 学習課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 集団教育の対象・テーマの選定 2) 地域特性や対象のニーズに応じた教育の目的・目標設定 3) 教育効果、対象の利便性及び実施者側の条件を考慮した計画立案 4) 対象の主體的な参加を促進する方法の工夫 5) 教育の効果考えた会場設営や進行の方法の工夫 6) 対象の生活の営みや理解状況を踏まえた指導案の作成 7) 集団における教育的働きかけ 8) 集団教育の中で行われる個別の教育的働きかけ 9) 教育の効果高める媒体の作成 10) 行動化を促すための動機づけや条件づくりの方法の工夫 11) 健康教育の評価計画の立案と評価の実施 <p>2. 実施方法 5～7人のグループを編成し、グループ毎に地域住民を対象とする健康教育の計画立案、実施、評価を行う。</p> <p>3. 演習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康教育企画の立案 (評価計画を含む) ・ 指導案の作成 ・ 教育媒体の作成 ・ 健康教育の実施準備 ・ 健康教育の実施 ・ 健康教育の評価

教 科 書	「最新保健学講座2 地域看護支援技術」村嶋幸代編 (メヂカルフレンド社)
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 論 II	単 位 認 定 者	小 笠 原 映 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	水曜:12:10~13:00(小笠原研究室)
科 目 の 目 的	在宅療養者を支える社会資源とそれらを有効に機能させるための方法を理解する。また、在宅看護と生活援助に必要な知識と基本技術を習得すると共に、家族への看護技術指導を実施できることを目指す。		
学 習 到 達 目 標	1. 在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる 2. 基本的な生活援助の技術を習得する。3. 特殊な処置・管理を要する在宅患者の援助に必要な知識と技術を習得する。4. 家族への看護技術指導に必要な知識と看護技術を身につける。		
関 連 科 目	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、地域看護学		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	筆記試験 (80%)、レポート (10%)、授業・演習への参加度 (10%)		
準 備 学 習 の 内 容	講義前に該当する事項に眼を通しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 2	在宅看護概論、在宅看護論 I の確認	在宅看護の特徴 在宅看護の展開 在宅療養者と家族看護
3	在宅療養者の症状・状態別の看護 1	脳血管疾患患者の在宅看護 脳血管疾患の看護過程 障害の受容 在宅看護援助の基本 具体的援助内容 リハビリテーションの援助内容
4	在宅療養者の症状・状態別の看護 2	感染症患者の在宅看護 在宅における感染症患者の看護 主な感染症と看護
5	在宅療養者の症状・状態別の看護 3	小児の在宅看護 看護の対象と医療的ケア 家族介護 在宅小児の訪問看護の現状
6	在宅療養者の症状・状態別の看護 4	難病患者の在宅看護 難病対策要綱 医療依存度のアセスメント 急性憎悪の早期発見と対応 難病における自己決定への支援 社会資源の活用 在宅保健・医療・看護援助チーム医療・調整 在宅ケアの評価
7	在宅療養者の症状・状態別の看護 5	独居の療養者に対する在宅看護
8	特殊な技術をともなう在宅看護 1	膀胱留置カテーテル
9	特殊な技術をともなう在宅看護 2	在宅中心静脈栄養 在宅中心静脈栄養の適応条件
10	特殊な技術をともなう在宅看護 3	経管栄養 経管栄養とは 経管栄養の対象者 アセスメント
11	特殊な技術をともなう在宅看護 4	在宅酸素療法
12	特殊な技術をともなう在宅看護 5	在宅人工呼吸療法 吸引・気管切開のケア
13 14	特殊な技術をともなう在宅看護 6 特殊な技術をともなう在宅看護 7	在宅ターミナルケア がん患者の痛みの治療法 疼痛コントロール
15 16	特殊な技術をともなう在宅看護 8 特殊な技術をともなう在宅看護 9	褥瘡ケア 褥瘡予防のためのリスクアセスメント 予防用具 栄養 スキンケア

回	講義題目	講義内容
17 28	在宅看護過程の展開 1-5	<p>演習オリエンテーション 在宅看護の看護過程の特徴</p> <p>＜演習内容＞ 在宅看護における看護診断 在宅看護過程の展開 訪問看護計画の作成 在宅看護の展開 演習報告会</p>
29 30	まとめ	<p>グループ毎に、演習およびグループワークを行う。 詳細は、演習時に説明する。</p>

教科書	<p>「在宅看護論―実践をことばに」 杉本正子・眞船択子（ヌーベルヒロカワ） 「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 秋山正子（医学書院）</p>
参考書	<p>「在宅看護・介護技術テキスト/指導用リーフレット/講義用指導案」 大野絢子（上武大学出版会） 「介護保険制度に関するパンフレット」 「訪問看護サービス」（日本訪問看護振興財団）</p>

授 業 科 目 名	臨 床 看 護 管 理 学	単 位 認 定 者	酒 井 美 絵 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義日の昼休み sakai@paz.ac.jp
科 目 の 目 的	医学の発展に伴う高度医療、情報技術の発達、EBM、個人情報の擁護など、変化していく社会や人々のニーズと環境を適応させながら、高い水準のケアを提供するための管理の方法を学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. 看護管理を支える組織、リスクマネジメントの基本、関連する社会制度、法を理解できる。 2. 病院における安全管理のシステムと実際を理解できる。 3. 医療チームの一員として、看護チームの一員として、どのように仕事をしていくのか考えられる。		
関 連 科 目	法学, 看護学概論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	授業への参加状況 10% 筆記試験 90%		
準 備 学 習 の 内 容	テキストや配布資料を読んでおくこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護とマネジメント	オリエンテーション 看護とマネジメント：マネジメントの基礎, 看護管理過程, 看護職の機能
2	看護関係法令	看護をとりまく諸制度：看護の定義, 保健師助産師看護師法, 医療法 医療職の法律
3	ケアのマネジメント	ケアのマネジメント：看護職の協働・他職種との協働
4	安全管理	患者の権利の尊重、医療安全、情報管理
5	看護サービスのマネジメント	看護サービスのマネジメントと必要な知識技術：組織, 協働, 技術
6	看護の経済的評価	診療報酬制度, 介護報酬制度
7	看護政策	看護政策：看護政策の実際, 政策への参画
8	看護管理の実際	病院看護管理者による看護管理の実際

教 科 書	上泉和子他著：:系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕. 医学書院. 2013
参 考 書	井部俊子, 中西睦子監：看護管理学習テキスト 1～8・別巻. 日本看護協会出版会

授 業 科 目 名	地 域 看 護 管 理 学	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月～金 16:30～18:00
科 目 の 目 的	人々が健康で暮らしやすい地域をつくるための地域看護管理の意義と実際について理解を深める。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護管理の意義と特色を説明できる。 2. 地域看護管理における情報管理、組織管理、事業・業務管理、予算管理、人事管理の基本的考え方と方法を説明できる。 3. 地域ケアの質保証、地域における健康危機管理、地域ケアシステムづくりの意義、目的、保健師の役割を説明できる。 		
関 連 科 目	地域看護学概論、地域看護活動論Ⅱ、地域保健行政、社会福祉・社会保障制度論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験 70%、平常点 30%		
準 備 学 習 の 内 容	テキストをよく読んで講義に望むこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	地域看護管理の基本	地域看護管理の意義、地域看護管理の特色、地域看護管理の諸相
2	情報管理	健康関連情報の収集・管理・発信、個人情報の取り扱い、情報公開、地域における情報ネットワークの構築
3	組織運営・管理 事業・業務管理	組織の目的、組織運営の基本、地方自治体における組織の仕組み・権限・意思決定と指示系統、事業の計画と運営、施策化のプロセス
4	予算管理	国および地方自治体における予算の仕組みと保健衛生関係予算の実際、予算の確保と執行
5	人事管理・人材育成	人事管理の目的、人員確保・適材配置・労務管理の実際、人事評価、人材育成方針、現任教育の計画と方法の実際
6	地域ケアの質保証	地域情報の管理、サービス提供機関のアセスメント、関係者との連携・協働、社会資源の開発
7	地域における健康危機管理	健康危機管理とは、健康危機管理の体制と平常時の活動
8	地域ケアシステムづくり	地域ケアシステムとは、地域ケアシステムの発展過程と保健師の役割

教 科 書	「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論」平野かよ子編集（メヂカルフレンド社）
参 考 書	「国民衛生の動向 2012/2013」（厚生統計協会）

授 業 科 目 名	災 害 看 護 論	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	矢嶋和江：授業の前後 矢島正栄：月～金 16:30～18:00
科 目 の 目 的	災害の種類や経時的医療ニーズの変化について理解し、保健医療職として災害各期における適切な被災者支援活動ができるための基礎的な知識を学ぶ。また、支援活動における看護の役割を理解し、国内外で発生する災害を人道的な視点から考える。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義及び災害看護の目的を説明できる。 2. 災害サイクルと発災後の援助ニーズの経時的変化を説明できる。 3. トリアージの概念に基づいた判断と、適切な応急処置ができる。 4. 災害の種類、発生地域、避難者の置かれた状況等によってどのような健康問題が発生するのかを説明できる。 5. 地方自治体における災害時の保健師の役割を説明できる。 		
関 連 科 目	臨床看護管理学、地域看護管理学、地域保健行政		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	演習内容及びレポート 50% 試験 50%		
準 備 学 習 の 内 容	テキストをよく読んで講義に望むこと		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	災害と法制度	<ol style="list-style-type: none"> 1) 災害とは 2) 災害看護の目的 3) 災害サイクルと災害対策 4) 災害による援助ニーズの経時的変化 5) 災害支援に関する法制度
2	災害による健康障害、災害発生時の応急救護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 災害の種類別健康障害 2) トリアージとは・タッキングの原則 3) 災害現場でのトリアージと応急救護法
3	災害救援活動 —日本の災害救援の体制—	<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療チーム派遣体制:DMAT 2) 災害看護師派遣体制:災害支援ネットワーク(看護協会) 3) 民間災害ボランティア派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアとその役割 ・被災地における支援活動の特性 ・ボランティアとしての心構え
4	災害救援活動 —国際救援活動—	<ol style="list-style-type: none"> 1) 国際救援とその仕組み 2) 国際緊急援助隊とは 3) 国外の被災地における援助活動の特性
5	災害発生時の行動～病院・施設の対応	<ol style="list-style-type: none"> 1) 災害被害の軽減対策(災害対応マニュアルと防災訓練) 2) 災害発生時の入院患者管理・避難誘導 3) 多死傷者受け入れのための準備 4) 被災施設職員の健康管理と災害ボランティアの受入れ
6	災害時の保健活動1	<ol style="list-style-type: none"> 1) 災害被災者の健康問題 2) 避難センターにおける支援と保健活動 3) 在宅の被災者に対する支援 4) 仮設住宅生活者に対する支援

回	講義題目	講義内容
7	災害時の保健活動2	5) ハイリスクグループへの支援 6) ASD と PTSD の症状とその予防対策 7) 惨事ストレスと心のケア 1) 災害準備期の保健活動 2) 災害時の情報管理、組織・運営管理、業務管理、予算管理、人事管理 3) 救済者の健康管理 4) 被災後のコミュニティーづくり 5) 地域防災計画、健康危機管理マニュアル等計画の策定への参画
8	原子力災害について まとめ	1) 放射線災害の基礎 2) 被ばくによる身体への影響 3) 原子力災害時の対応について 減災に向けて、あなたができることは何ですか？

教科書	「最新保健学講座5 地域看護管理論」平野かよ子編集（メヂカルフレンド社）
参考書	「災害看護」黒田裕子、酒井明子 監修（メディカ出版） 「看護師・介護師のための災害救護ハンドブック」矢嶋和江 編集（利根沼田印刷） 「阪神淡路大震災—その時看護は—」南 裕子 監修（日本看護協会出版会） 「ナースのためのトリアージハンドブック」山崎和枝 監修（医学書院） 「東日本震災レポート—その時どう動いたか—」日本看護協会出版会 監修（日本看護協会出版会）

授 業 科 目 名	国 際 看 護 論	単 位 認 定 者	辻 村 弘 美
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7.5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	講義の前後
科 目 の 目 的	国際協力や国際看護の概念や意義などを理解し、国際保健医療という視点における国際看護や国際協力などのあり方について考える。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護の概念や必要性が理解できる 2. 国際協力の歴史的な経緯と最近の動向が理解できる 3. 諸外国における健康問題や看護の現状が理解できる 4. 日本や諸外国で自分ができる国際看護活動とは何かを考えることができる 		
関 連 科 目	教養科目－ボランティア活動論、医療民俗学 専門基礎科目－公衆衛生学、疫学、保健統計 専門科目－災害看護論		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	試験 (80%)・授業への参加態度 (20%)		
準 備 学 習 の 内 容	日常生活の中で国際保健や国際看護に関する報道について興味をもっていただきたい。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	授業ガイダンス及び国際看護総論 1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護の概念 2. 国際協力の歴史とその変遷 被援助国時代から援助供与国になるまで 3. 日本の国際協力の流れ 二国間援助（無償資金協力、技術協力、有償資金協力）と多国間援助 4. 国際協力に関わる機関、GO、NGO、その他の援助機関の役割（JICA、厚生労働省、外務省、WHO、UNICEF、NGOなどについて） 5. 最近の国際協力の動向について
2	国際看護総論 2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・世界のさまざまな格差 ・わが国が受けた支援 ・ODA大綱の基本理念と原則 2. 保健医療の現状への対策 <ul style="list-style-type: none"> ・プライマリ・ヘルスケアの基本原則と意義
3	途上国における健康問題 1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先進国と開発途上国について 2. 貧困とは 3. 栄養問題、環境問題
4	途上国における健康問題 2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症コントロール（ポリオ・麻疹根絶活動、マラリア、下痢症、結核） 2. HIV/AIDS 3. リプロダクティブヘルス/ライツ
5	国際看護活動の実際	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年海外協力隊活動について
6	国際保健医療活動の実際	<ol style="list-style-type: none"> 1. JICA専門家、NGOワーカー
7	グローバル社会と看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在日外国人の増加による問題、外国人看護師の受け入れ問題など
8	国際看護活動への道	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際協力に必要な資質や国際看護活動について紹介する。

教 科 書	「国際看護学入門」国際看護研究会編（医学書院）
参 考 書	「Where There Is No Doctor」David Werner with Carol Thuman and Jane Maxwell 「バッシュ国際保健学講座」ポールバッシュ（じほう） 「国際保健医療協力入門」小早川隆敏編著（国際協力出版会）

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 実 習 I	単 位 認 定 者	鈴 木 珠 水
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	3 単 位 (3 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨床実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—
科 目 の 目 的	既習の知識、技術を用いて、慢性期・回復期・終末期の健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性期・回復期・ターミナル期にある患者の特徴が理解できる。 2. 慢性期・回復期・ターミナル期にある患者および家族の特徴が理解できる。 3. 薬物療法（抗がん剤など）・放射線療法によって生じた身体変化に応じた生活を営むための援助が理解できる。 4. 慢性期・回復期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるように支援できる。 5. 患者の心身の苦痛を緩和するための援助ができる。 6. 治療検査時の患者の援助ができる。 7. アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価・修正ができる。 8. 看護活動の記録および報告ができる。 9. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。 		
関 連 科 目	成人看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅴ、成人看護学演習、基礎看護学関連の科目全般、他 教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群の全ての科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	成人看護学実習要項参照		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項等に関する説明
	病棟実習	<p>独立行政法人国立病院機構西群馬病院 1, 3, 5, 6, 7 病棟（消化器内科、血液内科、呼吸器内科などの内科病棟）</p> <p>病棟オリエンテーション（病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介）</p>
	受け持ち患者に対する看護過程展開	受け持ち患者を通して、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。
		詳細は「成人看護学実習Ⅰ実習要綱」参照

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学 【2】－【15】(医学書院) ビジュアル臨床看護技術ガイド 照林社、写真でわかる臨床看護技術 インターメディカ 写真でわかる基礎看護技術 1.2 インターメディカ
参 考 書	成人看護学実習ガイドⅠ急性期・周手術期、照林社 成人看護学実習ガイドⅡ慢性期・回復期・終末期 照林社 治療薬マニュアル 2012 医学書院、看護データブック 医学書院

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 実 習 II	単 位 認 定 者	酒 井 美 絵 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	3 単 位 (3 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨地実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—
科 目 の 目 的	既習の知識、技術を用いて、急性期・周手術期・回復期の健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期・周手術期・回復期にある患者の特徴が理解できる。 急性期・周手術期・回復期にある患者および家族の特徴が理解できる。 手術療法によって生じた身体変化に応じた生活を営むための援助が理解できる。 急性期・回復期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるように支援できる。 患者の心身の苦痛を緩和するための援助ができる。 治療・検査時の患者の援助ができる。 アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価・修正ができる。 看護活動の記録および報告ができる。 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。 		
関 連 科 目	成人看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅴ、成人看護学演習、基礎看護学関連の科目全般、他 教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群の全ての科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	成人看護学実習Ⅱ実習要項 参照		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項等に関する説明
	病棟実習	<p>公立富岡総合病院、高崎総合医療センター、日高病院、群馬県済生会前橋病院 4 病院の外科病棟、整形外科病棟等において実習を行う。</p> <p>病棟オリエンテーション（病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介）</p>
	受け持ち患者に対する看護過程展	<p>受け持ち患者を通して、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。</p> <p>詳細は「成人看護学実習Ⅱ実習要綱」参照</p>

教 科 書	系統看護学講座 成人看護学 【2】 - 【15】 (医学書院)
参 考 書	<p>成人看護学実習ガイドⅠ急性期・周手術期、 照林社</p> <p>成人看護学実習ガイドⅡ慢性期・回復期・終末期 照林社</p> <p>治療薬マニュアル 2012 医学書院</p> <p>看護データブック 医学書院</p>

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	4 単 位 (4 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—————
科 目 の 目 的	老年期にある対象者を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として、既習の知識・尊重する態度・技術を活用し、対象者に応じた看護を展開する能力を養う。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある人の加齢変化や疾病による健康問題、生活行動、人生観やニーズなどの特性を観察、フィジカルアセスメント、コミュニケーション等を通してアセスメントし、理解する。 2. 老年期にある人の看護問題に応じた個別的なケアプランを立案し、実施・評価する。 3. 老年期にある人の特性や自立、安全に守るケア技術の実践方法を習得する。 4. 老年期にある人の尊厳・権利の尊重に基づいたケア提供者としての態度を習得する。 5. 老年期にある人のケアに関わる保健医療福祉の各専門職の役割と機能、連携について学習する。 		
関 連 科 目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	実習要項で指示された事前学習項目をレポートにまとめ、実習第1日目に提出		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ol style="list-style-type: none"> 1) ほたか病院 2) 高齢者施設 ベルジ吉岡たやの家 ベルジ高崎 2. 実習内容・方法 詳細は、実習要項に記載

教 科 書	老年看護学で使用したすべての教科書
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨床実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—
科 目 の 目 的	成長発達の過程にある子どもとその家族の特徴を理解し、変化する社会の中で、子どもと家族がい きいきと生活できるように、それぞれの健康レベルに応じた支援を考える		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの特性を理解し、成長発達に応じた関わりができる。 2. 健康障害とそれに付随する環境の変化が子どもや家族に及ぼす影響について理解することができる。 3. 健康障害を持つ子どもと家族の健康問題に応じた看護過程の展開ができる。 4. 子どもの特性を踏まえた基本的な看護援助が実施できる。 5. 子どもの最善の利益を考えた支援について理解を深めることができる。 6. 子どもが医療を受けるさまざまな場と看護職の役割について理解できる。 		
関 連 科 目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学得論）、 母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、 教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、 生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公 衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	実習要項にて提示		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ol style="list-style-type: none"> 1) 群馬県立小児医療センター 第1病棟、第2病棟 NICU・GCU、PICU、産科病棟 2) 前橋赤十字病院 5号（小児科）病棟 3) 群馬県内保育園・保育所 12 か所 2. 実習内容・方法 詳細は実習要項にて提示する

教 科 書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ナーシング・グラフィカ(28)小児看護学；小児の発達と看護」中野綾美編（メディカ出版）2012. 2. 「ナーシング・グラフィカ(29)小児看護学；小児看護技術」中野綾美編（メディカ出版）2012. 3. 「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第12版」奈良間美保他著（医学書院）2011.
参 考 書	必要時提示する

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	中 島 久 美 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	各担当教員が対応 オリエンテーションで通知
科 目 の 目 的	妊娠・分娩・産褥期及び新生児を総合的にとらえ看護過程を展開する。また、母子の看護に必要な基礎的实践能力を養う。		
学 習 到 達 目 標	1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対する個別的な援助について理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の援助を実施するために必要な基本的技術が習得できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の健康を保持増進するために必要な援助（健康教育）について学ぶ。		
関 連 科 目	既習科目、演習、臨床看護分野の実習すべて総合的に関連する		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	全体オリエンテーション及び実習前オリエンテーションに参加し、自身の目標を明確にする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
		<p>実習期間：2週間</p> <p>学内演習2日間、病棟実習（看護過程の展開4日間）、選択実習（妊婦健診、不妊外来、分娩見学、健康教育、新生児・ハイリスク妊婦）とする。</p> <p>実習時間：原則として8時30分～16時00分とする。</p> <p>実習施設：1）愛弘会 横田マタニティーホスピタル</p> <p>実習の進め方</p> <p>1）1組の母子を受け持ち、母子と家族との関わりを通して、実習目標を達成する。</p> <p>(1) 母親の産褥経過、新生児の経過に合わせた行動計画を立案し、ウェルネス思考に基づいた看護を実践する。</p> <p>(2) 学生主体の事例カンファレンスに参加し、看護過程の展開を通して、現実即した看護を迫及するための事例検討を行う力を養う。</p> <p>2）母性看護の特殊性を母性看護の役割を知るため次のような実習を通して目標を達成する。</p> <p>(1) 妊婦健診（妊娠期の基本的看護技術、妊婦の身体的、心理社会的側面の看護）</p> <p>(2) 不妊外来（生殖医療外来における検査・治療の見学実習、不妊治療を受ける女性の看護）</p> <p>(3) 分娩見学実習（正常分娩・帝王切開術の立ち会い、産痛緩和、新生児の出生時の蘇生、家族関係・家族役割）</p> <p>(4) 母親学級・ヨガ教室</p> <p>(5) 新生児室実習・新生児1カ月健診</p> <p>(6) ハイリスク妊婦（入院中の妊婦）</p>

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	精 神 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	小 林 信
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨地実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—————
科 目 の 目 的	精神障害を抱える対象を全人的に捉え、現在の生活上の問題に対してセルフケアを向上するための看護を実践する能力を養う。		
学 習 到 達 目 標	1. 生育歴、生活歴、病歴などを統合し、現在の対象のありのままの存在を理解できる。 2. 対象の看護上の問題を把握し、セルフケア理論に基づいて看護計画を立案・実施・評価できる。		
関 連 科 目	『精神看護学総論』、『精神看護学Ⅰ』、『精神看護学Ⅱ』		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	過去に学習した関連科目を復習し、対象理解、看護援助の方法、関連法規などを把握しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	臨地実習	実習単位 2単位(2週間) 火曜日～金曜日 8日間 実習場所 厩橋病院 実習時間 原則として9時～16時 実習方法 I. オリエンテーション 1. 病院の特殊性について 2. 看護業務分担について 3. 日課、週間予定表について 4. 診療用具、看護用具、その他 機械器具の保管場所 5. その他 II. 実習の進め方 1. 受け持ち患者の看護 2. 看護過程にそった看護の展開 3. カンファレンスの実施 III. 実習記録の提出 IV. 実習評価

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	地 域 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	小 林 亜 由 美
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	前 期
単 位 数	3 単 位 (3 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実 習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月 曜 昼 休 み
科 目 の 目 的	地域社会の生活集団を対象とした看護活動の方法と看護の展開に必要な技術を学び、看護専門職の役割を理解する。		
学 習 到 達 目 標	1. 住民の健康に影響する要因と、住民の健康を守るために有効な地区活動の展開方法がわかる。 2. 地域における保健師の活動形態の特質がわかり、地域看護の基本的技術を実施できる。 3. 保健医療福祉システムを有効に機能させるための看護専門職の役割がわかる。		
関 連 科 目	公衆衛生学、疫学・保健統計、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、地域看護学概論、地域看護学Ⅰ、地域看護学Ⅱ、地域看護学Ⅲ		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	関連科目の復習を十分行ってから臨んでください。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
		<p>1. 実習場所と実習時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 渋川・沼田・中之条保健福祉事務所、前橋市保健所並びに管内市町村保健センター (4-7月) ・ パナソニックエコソリューションズ朝日株式会社、NSK ニールドベアリング株式会社 (11-12月) <p>2. 実習内容</p> <p>実習施設における地域保健活動の実際と、そこに勤務する保健師の活動をとおして地域看護活動の展開方法と保健師の役割を学ぶ。</p> <p>※詳細は、実習要項において別途提示する。</p>

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし

授 業 科 目 名	在 宅 看 護 実 習	単 位 認 定 者	小 笠 原 映 子
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨地実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月曜:10:30~11:30(小笠原研究室)
科 目 の 目 的	在宅療養者とその家族に対する総合的な理解を深め、在宅ケアにおける看護の役割と支援方法、援助技術、在宅支援システムの実際について学ぶ。		
学 習 到 達 目 標	1. 在宅看護の対象となる在宅療養者とその家族の特徴が理解できる。 2. 在宅ケアにおける看護の役割が理解できる。 3. 在宅療養者とその家族を対象とする支援方法が理解できる。 4. 訪問看護ステーションの機能・役割が理解できる。 5. 在宅ケアシステムの仕組みと活動の方法が理解できる。		
関 連 科 目	在宅看護概論、在宅看護論ⅠⅡ、他 教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群の全ての科目		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	出席状況、実習態度、実習記録、実習のまとめレポート		
準 備 学 習 の 内 容	在宅看護概論、在宅看護論ⅠⅡで学習した内容を復習しておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
	オリエンテーション	実習の目的、目標、方法、留意事項等に関する説明
	訪問看護ステーション実習	実習場所： ①はたか訪問看護ステーション ②訪問看護ステーションホームナース ③群馬県看護協会訪問看護ステーション ④訪問看護ステーション富岡 ⑤訪問看護ステーション渋川 ⑥訪問看護ステーション高崎 ⑦訪問看護ステーション前橋南 ⑧訪問看護ステーションたんぼぼ ⑨訪問看護ステーションほほえみ
	実習のまとめ	実習方法・内容： ※詳細は実習要項に記載する。 実習をととしての学びや反省を個人レポートにて報告するとともに、実習目標の到達状況を振り返り、今後の学習課題を明確にする。 また、在宅看護実習の実習体験を学生間で共有し、在宅ケアに関わる援助技術、在宅療養者を支えるケアシステムとそれに関わる専門職の役割について、実習指導者および教員を交えて学習を深める。 ※詳細は実習オリエンテーション時に説明する。

教 科 書	「在宅看護論—実践をこぼに」 杉本正子・眞松沢子 (ヌーベルヒロカワ) 「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」 秋山正子 (医学書院)
参 考 書	在宅看護・介護技術テキスト/指導用リーフレット/講義用指導案 大野純子 (上武大学出版会) 「介護保険制度に関するパンフレット」 「訪問看護サービス」 (日本訪問看護振興財団)

授 業 科 目 名	総 合 実 習	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	実習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	各担当教員が対応 オリエンテーションで通知
科 目 の 目 的	既習の知識や技術を統合し、ケア提供組織の中で展開されるチームアプローチを通して、総合的な看護実践能力を高める。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の特性や状況にあわせた計画的・継続的な看護を実践できる。 2. 看護の質保障と安全管理のためのケア提供システムについて理解し、実践できる。 3. 看護職間及び多職種間における協同・連携（チームアプローチ）の実践について理解できる。 4. 看護専門職として質の高い看護を提供するための探求的姿勢を養うことができる。 		
関 連 科 目	座学における既習科目、演習、臨床看護分野の実習すべて総合的に関連する		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	実習要項にて提示		
準 備 学 習 の 内 容	全体オリエンテーション及び施設別オリエンテーションに参加し、自身の目標を明確にする。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
		<p>実習期間：2週間（1週を臨地実習、1週を学内実習(事後学習)とする。） 実習時間：原則として8時30分～16時30分とする。 実習施設：1) 国立大学法人 群馬大学医学部附属病院 2) 独立行政法人 国立病院機構 西群馬病院 3) 医療法人 日高会 日高病院</p> <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1名もしくは複数の患者との関わりを通して、実習目標を達成する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 対象者の状態や状況に合わせた行動計画を立案し、看護を実践する。 (2) 他職種とのカンファレンスに参加し、情報の共有・継続看護について実践する。 2) チームアプローチの実際を知るため次のような実習を通して目標を達成する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護師同行実習(複数の患者を担当する場合の看護実践の学び) (2) リーダーナース同行実習 (3) 看護管理者同行実習 (4) 認定看護師・専門看護師、チームでの活動への同行実習 (5) 外来見学実習 (6) 退院調整部門実習 3) 実習記録・レポートを通して実習の振り返りを行い、看護専門職としての姿勢について考え実習目標を達成する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学内での学習体験発表 (2) 実習での学びの確認と考察、記録類のまとめ

教 科 書	既習科目のテキスト
参 考 書	既習科目の参考書

授 業 科 目 名	看 護 研 究 概 説	単 位 認 定 者	伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	月・火・金曜日の昼休み（伊藤）
科 目 の 目 的	看護研究とは何か、看護研究の意義と目的、方法、プロセス、倫理的配慮、各専門領域における研究の特徴を学ぶ。また、自分の関心のある研究テーマについての文献検索、論文の収集、クリティークを行い、研究の実施に向けての最初のステップを学習する。		
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と目的が理解できる。 2. 研究の種類と特徴が理解できる。 3. 各専門領域における研究の特徴が理解できる。 4. 文献検索方法が理解でき、必要な文献を収集できる。 5. 研究のプロセスと研究計画書の作成方法、倫理的配慮が理解できる。 6. 研究の実施に向けて、自分の研究テーマを探索できる。 		
関 連 科 目	既習科目すべて		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	期末試験 50%、課題レポート 35%、平常点 15%		
準 備 学 習 の 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門領域における研究の特徴と実際①～⑤をとおして、関心のある研究領域・取り組みたいテーマをイメージしながら授業に参加する。 2. 文献検索の実際、論文収集、文献の読み込みは授業時間以外の時間を使って学習を進める。 		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1	看護研究の意義と目的	看護における研究の役割と目的、EBN
2	研究の種類とデザイン	研究の種類と研究デザインの関係、研究デザインの種類
3	事例研究と質的研究	看護の実践と研究、質的研究の特徴と方法
4	量的研究	量的研究の特徴と方法、記述統計の基本
5	研究における倫理	研究と倫理、研究における倫理ガイドラインと倫理的配慮
6	専門領域における研究の特徴と実際①	基礎看護学
7	専門領域における研究の特徴と実際②	成人看護学
8	専門領域における研究の特徴と実際③	老年看護学・精神看護学
9	専門領域における研究の特徴と実際④	母性看護学・小児看護学
10	専門領域における研究の特徴と実際⑤	地域看護学・在宅看護学
11	研究のプロセスと研究計画書の作成	テーマの設定、データ収集、分析方法、発表 研究計画書の内容と作成方法
12	文献検索①	データベースを用いた文献検索の方法（演習）
13	文献検索②	文献検索の実際（演習）
14	文献検索③	収集論文のクリティークと文献カードの作成
15	まとめ	自己の研究課題の焦点化

教 科 書	「看護研究こころえ帳」李節子著（医歯薬出版）
参 考 書	「看護研究のすすめ方・よみ方・つかい方」数馬恵子編（日本看護協会出版会）

授 業 科 目 名	卒 業 研 究	単 位 認 定 者	学 科 教 員 全 員
対 象 学 年	第 4 学 年	学 期	通 年
単 位 数	4 単 位 (6 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	演習	オ フ ィ ス ・ ア ワ ー	—————
科 目 の 目 的	看護学における研究課題を学生自ら主体的に探求することを通して、総合的な理解力を養う。看護学及びそれに関連する以下の領域から、学生自身が講義・演習・実習を通して興味をもったテーマを選定し、理論に基づき、教員の指導のもとで研究を計画・実施し、さらに、その結果を発表・論文化する。		
学 習 到 達 目 標	各講座指導教員のもと、自分の選定したテーマに従い研究計画を立て、実施し、その結果について論文を作成する。		
関 連 科 目	既習の科目全てと関連する。		
成 績 評 価 方 法 ・ 基 準	卒業研究に取り組む過程および論文作成結果を総合して評価する。		
準 備 学 習 の 内 容	研究に取り組んでみたいテーマについて情報収集をしておくこと。		

回	講 義 題 目	講 義 内 容
1 ～ 60	オリエンテーション 文献検索 研究計画立案 実施 論文作成	各領域の指導教員の指導の下、研究計画を立て、実施し、その結果を論文として仕上げる。 基礎看護学に関する研究：基礎看護学領域担当教員 成人看護学に関する研究：成人看護学領域担当教員 老年看護学に関する研究：老年看護学領域担当教員 母性看護学に関する研究：母性看護学領域担当教員 小児看護学に関する研究：小児看護学領域担当教員 精神看護学に関する研究：精神看護学領域担当教員 在宅看護学に関する研究：在宅看護学領域担当教員 公衆衛生看護学に関する研究：公衆衛生看護学領域担当教員

教 科 書	特になし
参 考 書	特になし